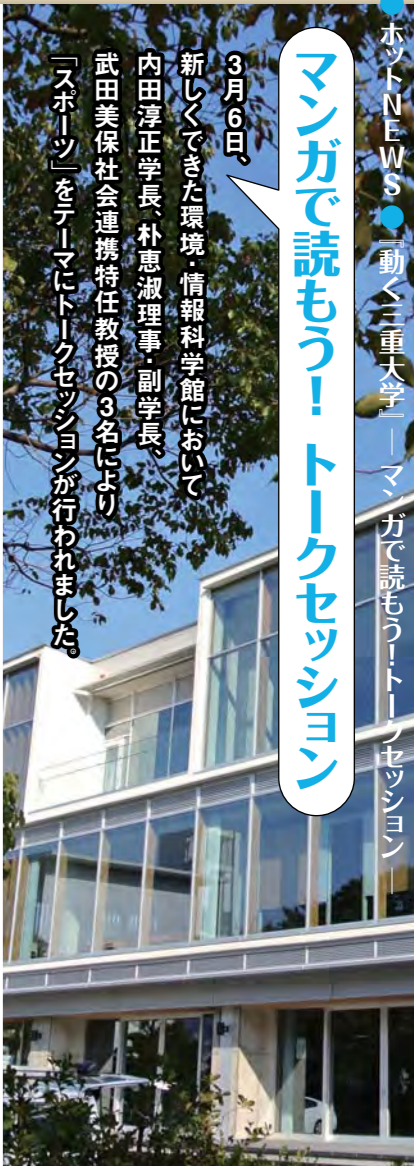


マンガで読もう！ トークセッション

3月6日、新しくできた環境・情報科学館において内田淳正学長、朴恵淑理事・副学長、武田美保社会連携特任教授の3名により「スポーツ」をテーマにトークセッションが行われました。



今日は武田美保先生と内田学長に来ていただきました。まず始めに内田学長から一言いただきたいと思えます。

まあ本来スポーツというのは、筋力とか体力勝負で行われることが多いんですね。その中で私は、武田先生が一番いい選択をしているなと思うのは、シンクロナイズドスイミングというのは、女性有利のスポーツではないかなと思うんです。

この間まで7時間ちょっとというドーバー海峡横断の最速記録を20年近く持っていた人も女性でした。ですので、長距離の水泳とかシンクロっていうのは間違いなく女性に有利なスポーツなんです。

男性は男性ホルモンのたくさん出る筋力アップというのはよく行われるんですが、女性ホルモンがたくさん出るというのは脂肪を体につける傾向が女性にはあります。



さすが医学博士。それでは早速武田先生に、美しさと力強さが揃わないといけないシンクロナイズドスイミングをどうして選んだのか、教えていただきたいと思えます。武田先生、いかがでしょう。

理由は本当に単純で、実家の目と鼻の先に大きなスイミングスクールがあって、体育の授業に困らないようにというところから始めました。

シンクロには2つ、演技するのにも有利な体つきがあると言われておりまして、ひとつは体のラインが、もうひとつが肘や膝が、逆側に伸展していたほうがしなやかな動きができます。



わたしは体のラインがまずすぐだということで先生からのお誘いをいただきました。

おかげさまで、21年間、シンクロに携わることができました。

武田先生が生まれながらにして、シンクロに適した体つきを持つていたということですが、ここで医学博士にひとつ教えてもらいたいのは、膝が逆側に曲がるというのはよくあることなんでしょうか？

はい。ありますよ。肘がこつ一反張するわけですね。反張するということは関節の可動域が普通の人よりも大きいわけですね。ですから武田先生の言われたように、動きがしなやかに見えるのでしょうか。

女性と男性と違って、膝だけじゃなく股関節も動きが軟らかいんです。これが高齢になると、関節が痛んでくる原因のひとつになってくるんですね。



まあでもそういう可動域の大きい関節を持っているというのは、ダンスとか体操のようなしなやかな動きが必要とされるものの中では非常に重要な要素だと思います。

そうですね。人間には自己防衛本能が働いて、自分自身はこれ以上活動してしまつて命の危険に関わるという限界値があるんですね。女性は子孫を産み、育てあげるまで生きなくては行けないということで、その自己防衛本能が男性よりも強く、余力を残すんですね。

「追い込めない。わかってる。あなたまた余力残してる。」そしてとんとん、とんとん限界以上に追い込みをかけるんですね。ですので先生の厳しい指導というものが強さにつながったんだと思います。

なるほど。今日はスポーツと医学がベストミックスした素晴らしいお話をありがとうございました。



登場人物紹介



徳島県出身。2005年、三重大学医学部附属病院院長に就任し、2009年に現職である三重大学長に就任する。外科医時代の専門は骨軟部腫瘍、関節外科、生体材料。



京都府出身。元シンクロナイズドスイミング選手。オリンピックでデュエットおよびチームにおいて、計5つものメダルを獲得し、2004年のアテネオリンピックの年を最後に現役引退。2011年、三重大学社会連携特任教授に就任。



韓国ソウル出身。2000年より三重大学人文学部教授。2011年4月1日より三重大学の国際および環境の担当理事・副学長となり、日本の国立大学において初めての外国人副学長となった。専門は環境地理学。

考えてみよう

水泳には脂肪が大切？



これは、丸太の比重が10より小さく、石ころの比重が10より大きいからです。比重とは「大きさあたりの重さ」のことで、水は基準値の1.0で表されます。脂肪の比重は一般的に0.9とされています。

だから水泳には水に浮く脂肪が大切なのかな？



オリンピックでのシンクロ

シンクロナイズドスイミングの起源は、1900年頃ヨーロッパでシヨアの形で行われていた水中でのパレエカと言われています。日本選手団は1984年のロサンゼルス大会から現在に至るまでの全ての大会でメダルを獲得しています。オリンピックでは現在、8人で演技を行うチーム競技と2人で演技を行うデュエット競技の2種目で実施されています。

日本代表

オリンピックでの獲得メダル

Table listing medal achievements from 1984 to 2008. 1984: 銅メダル (シンクロ). 1988: 銅メダル (シンクロ). 1992: 銅メダル (シンクロ), 銅メダル (デュエット). 1996: 銅メダル (シンクロ), 銅メダル (デュエット). 2000: シルバーメダル (シンクロ), シルバーメダル (デュエット). 2004: シルバーメダル (シンクロ), シルバーメダル (デュエット). 2008: 銅メダル (シンクロ), シルバーメダル (デュエット).